

ほ に ゆ り い す 野生哺乳類はどんな種類が棲んでいる？

座光寺には次のような野生哺乳類がす棲んでいると思われます。

トガリネズミ類（類は何種類かいるという意味です）・モグラ類・コウモリ類・ニホンザル・ノウサギ・リス類・ヤマネ・ネズミ類・ツキノワグマ・タヌキなどのイヌ類・イタチ類・ハクビシン・イノシシ・ニホンジカ・カモシカ

これは座光寺だけの動物を調べた例はないので、飯田地方に一般に分布する動物から推定したものです。これらのうち、いくつかの種類の話題を紹介しましょう。

座光寺にもいる絶滅危惧種－カヤネズミ

カヤネズミは小型でよく知られているハツカネズミよりさらに小さく、愛くるしい動物です。ススキやオギといったいわゆる「カヤ」の中に巣をつくり子育てをします。

となりの愛知県あたりでは普通に生息しているようですが、長野県では絶滅危惧種（絶滅のおそれがある種）とされています。

私が初めてカヤネズミに出会ったのは昭和51年7月、阿南第一中学に勤めていたときのことで。ある生徒が「おじいさんが草刈りをしていてみつけました」といって届けしてくれたのです。それまで見たこともないネズミでしたので、凶器で調べてみました。しかし「長野県では平谷村に生息」としか書いてありませんでした。

その後、昭和59年諏訪湖に注ぐ川の河川敷で発見され



カヤネズミ



カヤネズミの巣

新聞に「長野県で初めて・・・」と報道されました。それほど珍しいネズミなのですが、平成4年7月「週刊いっだ」で、座光寺の佐々木いさ

子さんが飼育しているという記事を発見、大変驚きました。天竜川河川敷付近の水田で脱穀中に稲はざからとびだしてきたのだそうです。

私も少し調べてみましたが、天竜川の河川敷だけでなく、放置された畑などでも巣を見つけることができました。よく調べればけっこういろいろな場所でたくましく生きているのではないかと思います。

ほとんど知られていないジネズミ

ジネズミはあまり知られていませんが、人家付近から山麓までごく普通に生息しています。飼猫が捕まえてくることもあります。小さなネズミくらいにしか思われていないようです。ジネズミは「ネズミ」という名前がつけられていますが、トガリネズミのなかまでモグラに近い哺乳類です。目がとても小さく、ミミズや昆虫を捕食する肉食動物です。かつて高森町下市田の住宅に住んでいたとき、私の部屋に入ってきたことがあります。

昆虫を追いかけってきたのだと思います。皆さんの家の近くにも生息していますので、注意してみてください。



ジネズミ

最近目立つようになった哺乳類－ハクビシン

ハクビシンといえば、今では子どもたちにもおなじみの動物です。座光寺地区でもトウモロコシなどを食い荒らされたという話が珍しくなくなっています。

しかし、昭和30年代まではまさに幻の動物で、長野県の天然記念物に指定されていました。ところが昭和50年

代になって急速に分布を広げ、今では全果的に生息するまでになりました。

ハクビシンはもともと日本の動物ではなく、毛皮用に飼育されていたのが野生化したといわれています。



ハクビシン

ハクビシンはもともと肉食動物ですが、甘いのが好物で、果物やトウモロコシもよく食べるようです。伊那谷では果樹栽培が盛んで、ハクビシンにとってもまさに天国です。また、人間が捨てた残滓でも生活でき、生ゴミの増加とともにどんどん増えてきたようです。

ツキノワグマ

山の神公園手前に「19.8.16無出沒」という看板がたてられています。ここは以前からときどきツキノワグマが目撃されたところです。



ツキノワグマ

平成18年にはツキノワグマが全国的に人里まで出沒する事件が多発し社会問題にもなりましたが翌19年は落ち着いたようです。グマが増えてきたかどうかわかりませんが、昔と違い人里にも生息しているようですので、十分気をつけたいものです。

ニホンジカ

ニホンジカは明治中頃には天竜川より西側では絶滅し

たとされてきました。私が哺乳類を調べ始めた昭和50年代には、伊那谷の主な生息地大鹿や遠山もまだシカ保護区で、今のように目立つ被害も見られませんでした。しかし、その後急速に分布を広げ、今では西山でも見かけるようになりました。また、最近では高山にも進出し、高山植物の被害も目立ってきました。ニホンジカは群れで行動するため、草原は一面刈り払われたようになります。座光寺ではまだ被害は出ていないようですが、多くの人が気づくようになってからでは大変です。



ニホンジカ

写真は松川町付近の天竜川河川敷で発見したニホンジカの足跡です。もう近くにいるのに、まだ気づかれていないようです。



ニホンジカの足跡

皆さんの身近にも、もう忍び寄ってきているかもしれません。足下をよく見たり、秋には外で耳を澄ませて牡鹿の声を聞いてみてください。

(宮下 稔)